

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部3歯学科3年

氏名: 鶴田麻里

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回この研修に参加したのは2回目だ。昨今の頃は、まさかまた自分がインドネシアの地を踏んでいるなど想像もつかなかった。昨年よりも長めのスケジュールでだったので、余裕を持って行動することができた。去年に加え新しく追加されたプログラムに、口唇口蓋裂の手術見学と、小学校への訪問があった。これが私にとってはとても勉強になるプログラムであり、また参加して良かったと心から思える時間だった。私たちのグループは口蓋裂患者の手術であり、近くで見学させていただいた。口腔外科への関心が深まり、将来の選択の参考になった。また小学校へ訪問した際は、小学生向けのスライドを作り、歯科の重要性を英語で発表した。子供達は一生懸命発表を聞いてくださり、子どもたちの笑顔を守れる大人になりたいとも感じた。将来の選択にとっても役立つプログラムだった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>インドネシアは親日国であると思つづく。タクシーに乗り、「ジャパン！」という笑顔で迎えてくださりとても嬉しかった。調べてみるとインドネシアは親日国で有名であり、その理由がオランダによるインドネシアの再植民地化を防ぐ手助けをしたからだと言ったことがわかった。またその上インドネシア人の国民性が、おもてなしが厚く、心優しく、楽しいイベントが好きなどがあり、とても居心地が良く「だから自分はまたインドネシアに期待と思ったんだ」と改めて感じる事ができた。</p> <p>ムスリムが多いインドネシアでは生活様式が異なる。特に食事・トイレ様式は異なる。食事の際には、左手が不浄の手といわれるため右手を利用して食べる。一方でトイレの際には、ティッシュペーパーはなく、桶を使って水をすくい、左手で洗浄する。そのため実際握手の際に左手を出す少し嫌がられた。生活様式の違いに最初は驚いたが、日本では味わえない良い経験だった。また日本にもムスリムの方は多いので、自分ながらの配慮をしようとも思った。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私がやりたかったことは一体何なのか、自分探しの旅になった。毎日講義棟で同じような日々を繰り返して、国家試験合格を目標としていると、自分の夢は一体なんだったのか忘れてしまう。特に歯学部では、資格さえ取れたら必ず歯科医師としての道が開けるため、自分の夢を持つ機会がなかなかない。今回の研修では、胸を突き動かされるような感情を久しぶりに感じた。小学校を訪問し、目をキラキラさせて勉強している子どもたちの表情・プロモ山からみた朝日・言語を超えた友情。自分がやりたかったことはこれだと、改めて気づいた時には涙が出そうになった。ずっと忘れていた感情を思い出し、それと同時にこの感情を忘れていたことに悲しみを感じた。このことを忘れず、何歳になっても夢を持ち続けられる大人になりたいと思った。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>地域社会の発展に寄与するには、当たり前だが勉学に励むことが第一優先だと感じた。特に学校では習得しづらい英語が話せなければスタートラインにも立てないことがわかり、どれほど大切なのか実感できた。様々な国の生徒が参加していたが、日本人は、私を含めて英語を話せる人が少なすぎると感じた。今回の研修には大阪大学や東京医科歯科大学と、歯学部でも難関な大学が参加していた。しかし驚くことに、入試レベルと英語力は比例していないことに気づいた。大切なのは英語で会話しようとする積極性であることがわかった。日常で外国の方と話す機会は少ないが、英会話の練習を本格的に始めなければならないという焦りを感じた。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所 属(学部(研究科)・学年): 歯学部 3年

氏 名: 田村眞子

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修では、Basic Laboratory Practicをはじめ多くの授業を受けた。この中でも、特に印象に残っていることはCleft Lip and Palate Surgeryの見学を行ったことである。実際の口唇口蓋裂患者の手術を術者とほぼ同じ距離で見学することができた。その際、歯科医師の手際の良さやチームワークを実際に観察することで、歯科医療に対するモチベーションが上がった。また、最終日には、小学生または小学校の先生の前で予防歯科や小学校における歯科関連事故について発表を行った。専門用語を用いず分かりやすく発表を行うためには、自分自身も発表内容についてきちんと理解する必要がある。そのため、チームみんなで詳しく話し合い、どのような内容にしたらいいかを議論することで英語力を向上させるだけでなく、歯科についても知識が増えたと考える。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>インドネシアに着いた当初は、「日本に比べて汚い」や、「現地の人怖い」など否定的な考えばかり浮かんだ。そのため、食事も菓子パンばかりを好んでいたが、一回現地の食事を口にしてみると、日本では経験できないような味がし、とても楽しみながら食べることができた。それからは、積極的に現地のもを食べるようになった。現地の食事を現地の人と味わうことで距離が縮まり、たくさんの話をする事ができた。また、見た目や先入観だけで判断しては、その先にある新たな感情や視点を身につけることができないと改めて感じ、これからも、チャレンジ精神を胸に知見を広げていきたいと強く感じた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修は、鹿児島大学だけでなく、大阪大学や九州大学などの日本の大学やソウル大学、Manchester University など世界からも多くの大学生が集まった。行ったことのないインドネシアに行くことに加え、自分と同じ学科に所属する別の地域における同志達と共に学ぶ機会をいただき非常に刺激的な10日間になったと考える。また、普段の生活ではずっと英語を利用していたため、自分の英語力を試すいい機会になった。初めは、自分の発音の悪さや文法の誤りを恐れ、日本人以外との会話を避けてしまった。しかし、周りの積極性に感化され、次第に「もっとみんなと話したい」や「私の意見をみんなに聞いてほしい」という気持ちが高まり、多くの人と話すことができた。今回の研修を通して、「積極性」の大切さを学ぶことができたと思う。自分の伝えたいことが伝わらなければ、言い直せばいいだけである。そのため、何事に対しても積極的な姿勢を持ち続けたい。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の経験を通して、途上国など医療資源が乏しい地域で活躍できる歯科医師になりたいと強く感じた。鹿児島大学口腔顎顔面外科に在籍されていた中村先生が、インドネシアで口唇口蓋裂の支援活動をされているという話を聞いたことがあったが、実際にアイルランガ大学歯学部在籍する多くの職員や生徒が中村先生のことを知っていた。私も中村先生のように治療可能な疾病を皆が平等に治療を受けられるような活動を行っていきたい。そのため、英語力だけでなく、歯科に関する知識やその地域における文化など数多くのことを学ぶ必要がある。そのため、学生のうちから多くの国際ボランティア活動に参加して異文化理解を深めていきたいと改めて感じた。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科3年

氏名: 岡元寛樹

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>口蓋裂の手術の見学では一次口蓋と二次口蓋の癒合不全と見られる女の子の手術を見学した。口腔外科はまだ習っていないものの、どのように縫合するのか、どの部分の癒合不全が生じているのか実際に目で見て学習することができたので非常に良い経験になった。腭臓の組織片の作成及び染色においては、初めて組織片の作り方を学び、またそれを染色することに成功、とても感動した。抗体の形成についても学ぶことができた。これから病理学等でさまざまな組織片を見ることができると思い、復習していきたく思った。法歯学はまだ未履修であるが、法医学同様に亡くなった方の最後のメッセージを受け取れるように学習しようと思った。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の生活で、まず驚いたことは交通事情についてである。インドネシアはとてもバイクが多く、まだ横断歩道もほぼ機能していなかった。道路を渡る時は手を挙げて無理やり渡る必要があった。交通に関する秩序はあまりなかったがそれをカバーする人々の優しさで成り立っているのだなと感じた。次は食事について、大学ではランチボックスが提供されたが、最初の方は辛くてなかなか食べれなかったものが多かった。現地人に話すとは何が辛いのかと言われたが、それと同じぐらい飲み物が甘く、このバランスが大切なのだろうと感じた。また、小学校を訪問したときには、彼らがとても英語を流暢に話していたため、自分はこのままでは良くないなと感じた。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修の前後で私が最も変わったと感じたのは英語で外国人に話しかける積極性である。最初はできるだけ日本人のいるところに行き、会話に参加していた。英語を聞き取ることは出来たが自分の思っていることを英語にして話すという事が怖かったからである。しかし、日を経るごとにどんどん積極性が増していった。一緒にプログラムに参加していた英国出身の2人とショッピングに行ったり、協力して課題を解決したりする中で自分の英語力で通じるのだと自信をつけることができた。これからもこの積極性を忘れないようにしたい。伝わらなかったり、わからなかったりした英単語などは勉強をして今後使って自分のボキャブラリーを増やしていきたいと思う。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展に寄与するために自分が今できることとして、今回知り合った外国人にInstagram等のSNSを利用して地元を発信して、きてもらって良さを発信するということが挙げられる。また、地元の人に今回行ったインドネシアのことを話して、文化や地域について知ってもらおうということが出来る。このような行動により、行ったことのない、触れたことのない文化について知見を広げたり、偏見をなくしたりすることができると思う。みんなが他の文化を知ることで人々は協力することができ、未来は明るい方向に向かうのではないかと思う。その第一歩として自分にできることをしようと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科3年

氏名: 小島言光

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の大学で口唇口蓋裂の手術を間近で見学したり、パノラマ写真に写る歯の育成・萌出度合から、その写真の患者が何歳かを推定する方法を学んだり、組織染色の方法を学んだりした。口唇口蓋裂については解剖や病理学で座学的な知識はあったものの、実際の手術の様子を間近で見るのは初めての経験だった。幼い患者の軟口蓋を塞ぐ手術だったが、小さな口腔内での繊細な手術の様子や、使っている道具や患者のバイタルに至るまで手術に関わる多くの人々の細やかな心配りを見ることができた。全体的に今自分が学んでいる内容より発展的なものではあったが、今後の学習の良い予習になったと思うし、これからの学習が非常に楽しみになった。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>インドネシアでは香辛料をふんだんに使った刺激の強い料理や、甘い味付けが好まれていた。また、小学校訪問の際には多くの子どもたちがアイスやチョコレートバーを食べている様子が目立っていた。食生活を考えると身体を壊したり虫歯になったりという心配があまりにも大きいと感じた。実際、インドネシアでは子どもの虫歯保有率が非常に高いことが大きな問題になっているし、糖尿病患者も世界上位の数である。糖尿病対策として加糖飲料への課税も始まっているようだが、現地の人々の意識の改革は生易しいものではないと思うし、実際に町の様子を見ると貧富の差が非常に大きく、貧しい人はまともな教育を受けることができている様子だった。インドネシアにはいくつもの乗り越えるべき課題があるようだった。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>元々人と話すことになかなか積極的になることができず、同じ言葉や価値観を共有する数人の仲間とだけ過ごす日々で満足している節があった。しかし、必要な物を買いに現地の学生さんたちが買い物に長時間付き合ってくれたり、冷房で身体が冷えた私にマレーシアの学生さんたちが体調を気遣う言葉をかけてくれたり、文化の違いに関わらず相手を精一杯気遣ってくれる人がたくさんいることにより、ようやく気が付いた。そして、今まで語学をおざなりにしていたせいで感謝の言葉すらまともに言えない自分の不甲斐なさに涙が出るほどの悔しさを覚えた。今後は語学にも他者との交流にも積極的になり、今度は自分が他者を手助けできる存在になりたいという意識の変化が最も大きく変わった点だと思う。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>世界にはインドネシア以上にたくさん問題を抱えた国が多くあると思うし、日本にも地域の教育レベルや所得の差、国民の健康水準などいくつも問題がある。まずは日本が世界のロールモデルとなるような社会の仕組みを作っていくような手助けができるように知識を身につけていきたいと思う。また、将来医療者として働いていく上で、知識と技術を磨くだけでなく日本の健康水準の底上げに貢献できるような発想力と探求心を持った人間になりたいと思う。そういった人間になれるように学生の間は基礎知識と技術をしっかりと身に着けつつ、今回のプログラム参加を足がかりに世界のあらゆる立場の人との意見交換も積極的に行っていきたいと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部・3年

氏名: 春木優花

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>サマースクールでは染色の実験や口唇口蓋裂の手術見学、法歯学の講義が行われました。全てが英語で苦労しましたが、講義自体は非常に興味深いものばかりで歯学の面白さを海外視点からも体感できました。特に口唇口蓋裂の手術見学は忘れ難いものでした。手術を実際に見ることは初めての経験であり、治療が進み縫合されゆく彼の口唇を見ながら、彼の第二の人生の始まりに立ち会っていると感じました。もう一度彼にどこかで出会えたら彼の心からの笑顔が見れたらと願わずにはいられないかけがえのない経験となりました。また手術室の外で祈るご両親をみて、我々歯科医師が患者だけではなくその大切なご家族の不安や心配を取り除きながら治療を進めることのできるような確かな信頼を築く必要があると実感できました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>生活において最も驚いたのはトイレです。事前にトイレにはトイレットペーパーがないことは調べて知っていたため、トイレットペーパーを日本から持って行ってはいたのですが、トイレの便座や床が濡れて水たまりができていているという情報には驚愕しました。アイルラング大学の友人になぜトイレが濡れているのか聞いたところ、外付けの小さなシャワーを使用しているためだと分かりました。これは、コーランに「穢れの状態にある時は特にそれを浄めなくてはならない」と定められているからです。モスクにおいては裸足でトイレに入らなければならないため床の水の中を歩きました。カルチャーショックではありましたが、イスラム教を尊重することは彼らにお世話になっている恩返しであり、彼らの文化や宗教観を体験し、理解することで彼らと心を通わせることができました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前と後で最も成長したのはコミュニケーション能力です。コミュニケーション能力とはいっても今までのグループワークやアルバイト経験などを通して培ってきましたが、私は自ら世間話など業務に関わらない内容について話しかけることをしようとはしませんでした。なぜなら、関係のないことを言って相手にどう思われるのか不安だったからです。しかし、研修の帰りにトランジットでシンガポールに滞在中、The Helix Bridgeという橋を訪れた際にDNAの螺旋構造を模しているとわかった私は同じ説明を読んでいた中年男性に“Bridges with DNA structure are really amazing and beautiful!”と話しかけていました。日本においても知らない人に感動を伝えるために話しかけるなんてことは一度もしたことなかったのですが、心を通わせることの大切さを知り思っている今の感情を分かりやすく伝えるというコミュニケーションを実践することができるようになりました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>コロナ禍も終わりを告げ、外国人観光客は日本に、鹿児島に次々と来てくれており、世界の人々との交流は日々の生活においても身近になっています。しかし、文化や宗教観は日本という島国ではあまり理解が進んでいません。せっかく日本に鹿児島に来てくれるにも関わらず、困っていることにすら気づけない、何に苦労しているのか察する努力をしないのはあまりにももったいないです。地域社会の発展には今や外国人の力は経済、労働の観点から必要不可欠でありお互いに暮らしやすい楽しい街づくりの構築が求められている時代だと考えます。よって今回の留学を通してイスラムの生活を少しだけではありますが、実感し理解できたため周囲の人に体験談を話すことからはじまり、prayer roomの誘導など大学や地域に理解や配慮を求めるような取り組みの実践を目標としたいです。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部・3年

氏名: 田村和輝

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修では、研究室で蛍光染色の体験、法歯学の授業で年齢推定、手術見学、現地の小学校での生徒や先生に対しての歯科指導について発表・学習しました。</p> <p>私は3年生ということもあり、法歯学や手術見学では、大学で未修得だったものの、現地の先生方が、わかりやすく説明してくださり、とても興味を持って体験することができました。</p> <p>特に、手術見学では、患者さんの症状、手術方法を知った上で見学することで、必要とされる技術や手術の雰囲気を知ることができ、私にとって、今後の進路にとっても良い影響となりました。また、現地の小学校での生徒や先生に対しての歯科指導において、自分たちでわかりやすく伝えるよう、スライドを作り、質問に対しては、なるべく専門単語を使わず、ジェスチャーや簡単な英語で伝えるよう心がけました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>インドネシアの方は、親日の方が多く、日本食、日本のアニメ、文化が深く浸透しており、日本人というだけでとても歓迎していただけました。海外での生活は、私自信慣れているせい、特に目立ったカルチャーショックはなく、文化、食事、トイレ事情などすぐに受け入れることができました。</p> <p>日本や日本人がとても歓迎されるのは、先人の方々が積み上げてきてくださったおかげなので、それに恥じることはないよう、日本人として誇りを持って今後の自分の行動、向き合い方を考え直すきっかけになり、とても良かったです。</p> <p>インドネシアの方は、とても陽気で、フレンドリーで、そのような雰囲気も自分にあっており、たくさんの友達を作ることができ、研修中、毎日交流するのが楽しみで、一日一日がとても充実していました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修を通して、柔軟性を特に身につけることができました。柔軟性を身につけることで、英語力、コミュニケーション能力、適応力において、自信をつけることができました。海外では、言語の壁があり、その壁を乗り越えるには、言語力のみならず、コミュニケーション能力、発信力などが求められます。その中でも、私は、初めは慣れない中、積極的に他の国の参加者と関わっていき、次第にお互いに遊びに行く時も誘い会えるような仲になることができました。また、後半になるにつれ、参加者のみならず、訪問した場所で関わる方とも仲良くなることができ、自分の成長を実際に感じることもできました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修先のインドネシアは、日本と比べまだ途上国です。鹿児島大学を去年退職された中村先生は、インドネシア大学で口腔外科をされており、インドネシアに貢献されています。私たち生徒にとって、中村先生はとても憧れの存在で、今回の研修を通して、私は、中村先生のように、海外で活躍できるような歯科医師になりたいと、強く感じました。</p> <p>海外で活躍できるようになるのは、もちろん決して簡単な道のりではありません。大学在学中にできる、身近な取り組みとして、勉強はもちろん、英語力、ボランティア活動に積極的に取り組んでいこうと強く感じました。</p> <p>私は、今鹿児島県が主催しているボランティア団体に所属しています。今回の研修を通じて、以前よりも積極的にボランティア活動に参加し、身近にできることから始めていこうと思いました。また、引き続き、海外留学にも参加しようと思いました。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部3年

氏名: 近藤実優

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅢ
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修先では免疫組織化学染色について学び実習を行ったり、口唇裂の手術を見学させていただいたり、歯を観察し年齢を推定する方法を学んだ。口唇裂の手術を間近で見学した時に、切開する場所や縫合する場所をよく話し合いをしてから丁寧に手術を行っており、一つ一つの確認作業や的確な指示が重要であると学んだ。また、組織片の染色実習では様々な機械がありどのように使用するのかわかることができた。最後に法医学についての授業では実際に歯のレントゲン写真を見て年齢を推定するのに三種類の方法があることがわかった。これらの授業や実習を通して話を聞くだけではわからないような細かい作業だったり、人と人との関わりが重要になってくるということを知ることができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地で生活を体験して気づいたことは日本とインドネシアの文化の違いである。まず食文化の違いとして挙げられるのが香辛料を効かせた料理が多いことである。日本に比べるとインドネシアの人は辛さへの耐性が強いと感じた。また、主食は米で日本と同じだが普通の白米ではなく味がついているものが多かった。食文化以外にも日本と違うと感じたことは、交通面に関してである。インドネシアではバイクが多く軽自動車は走っていなかった。道路を横断する時に横断歩道であっても車やバイクは止まらないので素早く通らなければならなかった。</p> <p>インドネシアに行ったことで現地の食事や車社会であったことなどを体験することができた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前では英語に自信がなく、大学の方や現地の人達とコミュニケーションが取れるか不安だったが、伝えたいことを簡単な言葉に置き換えたり相手が親身になって聞いてくれたので、自分の英語に自信ができた。10日間の研修で段々と自分から話しかけることができ、わからない単語があれば辞書で調べたり友達に聞いたりして学んだ。</p> <p>研修後、積極的に自分からコミュニケーションを取るようになっており、日常会話において英語ではどのような表現をするのか、どういったニュアンスの違いがあるのかを自分で考えたり、調べたりと英語に触れる機会を増やしている。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現在日本は高齢化が進んでおり、多くの高齢者が心身ともに健康に暮らすためには食べたいものを自分の口に運び、咀嚼し味わうといった食事の楽しみが重要だと考えられる。そのためにも地域や離島での高齢化が進む現代で、歯科医師として実際に地域や離島に行き、訪問診療や歯磨き指導などを行い歯の健康を維持していきたいと考えている。</p> <p>また、海外研修積極的に参加し海外での地域の現状や問題点を実際に見て、現地ではどのように問題解決に取り組んでいるのかなどを学び、日本の地域医療に還元していきたいと考えている。</p>	